

**ときわ会は常に全員一致を求めなさい、
一致するまで時間をかけて待つ努力をなさい**

標記は、元ときわ会長であり、東蒲・五泉支部の大先輩でもある塚野巳三郎先生から頂いた「教職40年の思い出 私を支えてくれた言葉」に記載されていた一節です。そこには、次のように記されています。

ときわ会創設100周年記念事業の計画がまとまり、事業資金を集めるため臨時代議員会を開いた。この、百周年記念事業の中には財団法人新潟教育会の創設があり、その前に新潟教育会館（前の木造の会館）の購入の話が具体化した。一日も早く資金を集めたい時であった。代議員会では、記念事業として記念式典の挙行、記念誌の発行、記念色紙（諸橋徹次先生揮毫による）の配布、そして財団法人新潟教育会の創設を説明し事業資金の集金を提案した。質疑に入り大方の賛成を得たと思ったのであるが、一支部から集金は慎重に会員の理解を得てからと言う意見があった。会長、宮正安先生は、この意見を尊重して提案を撤回し、本部で検討し次回再提案すること、各支部でも検討することを願って代議員会を散会した。多数決にすれば、必ず成立したのに、苦勞して成案にしたのにと考えると割り切れない思いであった。代議員会が終わってから会長先生は、「ときわ会は常に全会一致を求めるのだ、一致するまで何回でも努力をすればよい。」と指導された。そして、次回の昭和47年2月の代議員会において全会一致で成立したのである。

このために、集金開始は若干遅れ苦勞をしたのであるが、所属感・連帯感を高めるということ、これを具体的に教えられたという思いである。

ときわ会は、来年度創設150周年を迎えます。現在の東蒲・五泉支部があるのは、それぞれの時代において、多くの先輩が、常に先を見据え、自ら研鑽を積み重ね、互いに切磋琢磨してきたからに他なりません。私たち会員が受け継ぐべきは、その高い志と、不断に努力を積み重ねる姿勢です。そのためには、会員一人ひとりが、大先輩の「志」に触れること、そして、その思いを解釈し、それぞれの立場で「10年後にどんな教師になっていきたいか？」「今、ときわ会員として一番頑張っていることは何か？」「後輩に、何を一番伝え、継承していきたいか？」など、「真価を問う問い」に正対し、自らの意志で次の一步を踏み出すことです。

2022年が幕を閉じ、間もなく2023年がスタートします。東蒲・五泉支部の活動の理念は源清流清です。「根本が正しければ結果も良い。川の流れは、水源が清く澄んでいれば、自然に流れも清らかである」を忘れることなく、先輩からの志を継承し、「真価を問う問い」について交流し合い、互いに進化・深化し続ける一年になればと考えています。

ときわ会東蒲・五泉支部 副支部長
上之山 達朗